

# ドラマ 『安マネってなに？』 名優・佐川満男さん・三島ゆり子さん出演

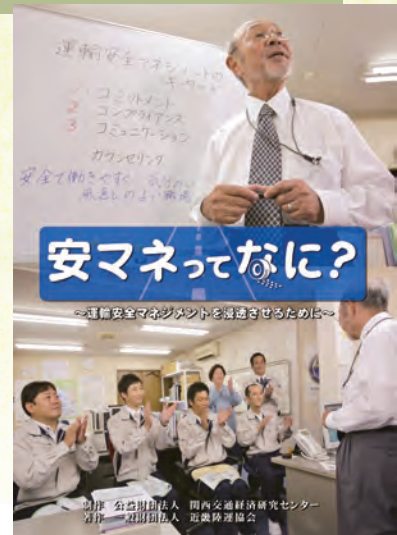
～ 運輸安全マネジメントを浸透させるために～

## DVD堂々完成!

中小零細規模の運輸事業者の皆さんにとって、「運輸安全マネジメント」はなんとなく敷居が高いと感じられる方が多いようです。そんな皆さん方に、とっつきやすく、わかりやすい方法で「安マネ」を知っていただくため、オリジナルのドラマDVDを制作しました。

DVDは、業界団体等を中心に無償で配布させていただきます。社内の勉強会等、あらゆる機会にぜひご活用ください。

お問合せは、お気軽に「公益財団法人関西交通経済研究センター」までどうぞ…



悲惨な交通事故の新聞報道に不安がつのる



大手企業での経験をもとに意気軒昂な敏一だったが…



理想と現実とは、そううまく行くはずもなく…

くあらすじく

泉敏郎（佐川満男）は妻で専務の昭子（三島ゆり子）とともに小さいながらも運送屋の社長として日々奮闘している。そんな敏郎の会社に大手運送事業者で修業していた息子の敏一（川村信彦）が帰ってくる。

誠意と人情とを算盤にかけて商売してきた父親と、事業の近代化を図ろうとする息子はなにかにつけて衝突してばかり…安全についても小規模事業者の家族意識という信頼関係だけを頼りにする社長相手に大手事業者でのシステムを無理矢理でも導入しようとする敏一。

敏一の熱意で事業の近代化へと歩み始めたはずの会社に、ある日…

佐川さんと三島さんは、これまでに幾度も夫婦役を演じた気心の知れた仲。今回のドラマでは、川村伸彦さん演じる一人息子に加わり、和氣藹々とした雰囲気の中で撮影が進みました。仕事はもとより、プライベートにおいても車を利用する機会が多い御三方に、日頃感じておられる交通安全に対する思いをうかがいました。

## ◆◆ 過信と油断は禁物 ◆◆ 〜「体と心と車の整備」を怠らないうと〜

佐川 以前、某テレビ局の番組で、温泉に入っって、いい食事をして、絵を書いて…という旅の仕事をしていました。楽しい思い出も多いのですが、



毎週放送だった頃は、ロケが終わるとすぐに次のロケ地へ移動だったから、もうクタクタ。絵を描くにも、夏は絵の具が溶けて乾かないし、冬は筆が凍って折れてしまったり、季節や天候によって描くポイントを探すのに苦労しましたよ。十一年間で209ヶ所に行きましたが、自分で運転して移動することはなかったですね。



三島 私も舞台の芝居の巡業で、四国や広島とか、いろんな所に行くんだけど、舞台が終わるとすぐに車に乗り込み、夜中に移動。ホテルに着いたらすぐに寝て、翌日は地元の劇場で芝居して、済んだらまたすぐに車に乗り込む…という繰り返し。運転手さんは昼間寝て、私たちは疲れているから、移動中はずっと寝ていました。

佐川 僕も若い頃、歌の巡業でよく行きましたよ。一日3ステージこなして、取っ払いで次の場所に向かうとかね。

三島 あなたはどうなの？

川村 僕は劇団に入っているんですが、移動はいつも一人で、通し稽古後の疲れた状態の中を自分で運転しています。



佐川 それは危ないなあ。

川村 そうなんです。だから、とにかくできるだけ寝て、運転に差し支えないように気を付けています。

三島 でも、運転していると眠たくなることってあるでしょ？

川村 もちろんあります。

三島 私も、自分で運転していて眠くなるもの。だから、食事を取った後は運転するのを止めるの。食後1時間は凄く眠いから、10分でも15分でも寝てから運転するようにしてるの。

佐川 僕はね、逆に運転する時、全然眠気が来ない。そのかわり、家に帰ってから眠れない。ガァ〜つと興奮してね。

川村 分かります。ずっと緊張が続いているんですよ、帰っても。

三島 私、乗せてもらったことあるけど、緊張して運転してなかったじゃない。ダラダラしてたわよ(笑)

佐川 いや、三島さんが横にいるから、緊張して。大女優を横にさせてるわけですから(笑)

三島 そんなに緊張して運転するの？私も車に乗ると疲れるけど、やっぱりみんな緊張してるんだ。

佐川 うん、だからね、僕は、あまり運転が好きじゃないんです。

三島 事故したら大変なものね。同じ記事でも、芸能人が事故を起こすと凄く大きく載るでしょ。私、自動車教習所で言われたんだもの。「あなたが事故を起こしたら大きく出ますから、気を付けてください」って。

佐川 ほんと、気を付けなければいけませんよ。僕は思うんですけど、さっきも話に出たように、睡眠ね、つまり体の整備。それと心の整備もいる

ね。ようするに、「自分は運転が巧い」と思う時があるけど、これが大きな間違いで、この過信と油断が一番危ない。そして、もう一つ大事なのは、車の整備。車を過信してはいけない。

## 運んでいるのは「人の命」 〜運転は自分一人だけの問題じゃない〜

佐川 この前、七十歳を超えて免許の更新を受けた時に、運転が巧いって言われましたが、「七十五歳を超えると、免許を返上する人も継続する人もいるけど、運転するなら脳内管理だけは宜しくやってくださいね」と。ようするに、年を取ったら気を付けなければいけないんですよ。

三島 そうね、若くても急に発作が起きて、車を停めて事故になったりとか。お医者さんに注意されて分かっていても、車に乗って事故を起こしたってこともあったし、あれはもう、だいぶ気を付けてもらわないと困るわね。

川村 やっぱり、油断をしない事ですよ。佐川さんがおっしゃったように、運転するときには緊張感を持って、目的地に着くまでは運転中の携帯は絶対ダメだし。僕は飲食もしないようにしています。

三島 可愛い女の子がいたからって、キョロキョロしたりするのはダメなのよ。

佐川 昔はねえ、僕なんか散々ね、片手運転でタバコふかして乗ってましたが、今は両手でしっかりハンドル握って、それはもう、きっちり。

三島 それは意外だったわ。あんなに運転が上手な人なのに。

佐川 僕の住んでいる所は、道が細いから、運転が巧くなるんですよ。ところが、やっぱり都会じゃないので、大阪とかの都会に出ると、もう怖いですよ。乱暴な運転とかに馴れていないから。

川村 都会は交通量も多いし、特に安全を守るのが難しいですよ。自分が気を付けていても、向こうからくる場合があるから。

三島 そうね、センターラインを超えるときか、急に後ろからぶつかって来たりとか、そういうのって許せないよね。

佐川 ほんと、そうだよ。

三島 私ね、年に一回位ツアーバスに乗ることがあるんだけど、休憩の時に運転手さんに「今日は混んできますね」とか話しかけて、どういう人か人柄を見るようにしてるの。運転って、人柄が出るでしょ。

川村 それ、いいかもしれませんね。コミュニケーションを取ることによって「この人が乗っているから、気を付けて運転しよう」という思いになりますね。

三島 そうそう、「今日はこんなきれいな人が乗っているんだから、気を付けて運転しなくっちゃ！」って思うでしょ（笑）。自分が扉や電柱にぶつかるのは情けないけど、人を何かしたというのは、取り返しがつかないもの。「運んでいるのは人の命」という意識が大切。私、自慢じゃないけど、それは気を付けて運転しますよ。

佐川 そうだね。でも、自分が注意していても、いつどこから何が降りかかってくるか分からないし、大きな事故を起こすと、相手や自分の命だけでなく、家族や周りの人にも影響する。運転するという事は、自分一人だけの問題じゃないんですよ。実際、僕なんか怖い時がありますよ。今のドラマじゃないけど、ヒヤリハット。僕は目が悪いから、メガネの外側がよく見えないんですよ。だから、いつも十分に注意してるんですよ、曲がろうとした時に、突然、横に自転車飛び出して来たのに気付いて、ハッとすることがあるんです。

川村 運転していると、自転車って本当に怖いですよ。

佐川 昨今、自転車って本当にマナーが悪くなっていますね。



三島 本当に危ないわよね。自転車も軽車両だから、無謀な走行はもっと厳しく取り締まってもらいたいわね。

佐川 道路はみんなの道なんだから。車の運転はもちろん、利用する全ての人がマナーを守らないといけない。

川村 本当に、そうですね。

三島 みんなでマナーを心掛けたいですね。

【文責 大安 佐智】

